



THE PORTLAND GROUP

PGI® Workstation/Server Windows®版
(コマンドベース・コンパイラ)
Release 7.2

－ インストールの手引き －

2008年5月版 (Rev. 7.2-A)

株式会社 ソフテック HPC ソリューション部

(<http://www.softek.co.jp/SPG/>)

SofTek

目次

1	はじめに	1
1.1	本文書の内容	1
1.2	PGI 製品のソフトウェア情報パッケージについて	1
1.3	ライセンス形態	1
2	PGI コンパイラのインストール準備	2
2.1	インストールする PGI コンパイラのソフトウェアの種別	2
2.1	以前のバージョンをインストールしている場合の留意点	2
2.2	PGI WORKSTATION/SERVER ソフトウェアのディレクトリ構造	3
2.3	インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション	4
2.4	ソフトウェアの準備	4
3	ソフトウェアのインストール	5
3.1	PGI COMPILER FOR WINDOWS (R) 版のインストール	5
3.2	正規ライセンス取得のための HOSTID と HOSTNAME	8
3.3	正式ライセンスの取得	8
4	ライセンスの設定方法等	9
4.1	ライセンスファイル (LICENSE.DAT) の確認と配置	9
4.2	FLEXLM ライセンス・マネージャの起動	9
4.3	他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定 (PGI SERVER 製品)	12
4.4	PGI コンパイラソフトウェアのアンインストール	13
4.5	PGI COMPILER FOR WINDOWS® 版使用環境の準備	13
4.6	オンラインドキュメントの参照	13
4.7	バグフィックスの適用	14
5	サポートサービスについて	15
5.1	初期サポートサービス	15
5.2	ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口	15

1 はじめに

1.1 本文書の内容

本文書は、PGI コンパイラ Windows® 版 製品のインストールおよびライセンス設定方法を記述したドキュメントです。

1.2 PGI 製品のソフトウェア情報パッケージについて

弊社にて PGI 製品の「ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション)」を用意しております。ソフトウェア情報パッケージをご購入頂くことにより、以下のサービスが受けられます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

同パッケージを未購入の方でも、製品出荷後 30 日間はインストールに関するサポートサービス (電子メール、FAX のみ) を受けることができます。ソフトウェア情報パッケージで提示しております内容を希望される場合は、本パッケージのご購入が必要となります。

ソフトウェア情報パッケージの有効期間は、出荷セットに同梱致しました「ソフテック エンドユーザ登録用紙」の「プロダクト情報」の欄に記載されておりますのでご確認ください。また、本パッケージは製品ご購入後 1 年間有効 (製品ご購入時に設定される無償保証期間は含みません) とし、2 年目以降もご希望のユーザ様には、継続購入して頂く必要がございます。

1.3 ライセンス形態

PGI コンパイラのライセンス形態は、FLEX1m 形式のライセンスとなります。下記に本製品のライセンス形態と制限事項を説明致します。

表 1 ライセンスの形態

ライセンスタイプ	内容
FLEX1m 形式	任意のユーザアカウントでコンパイラを使用できます。コンパイラを同時に行えるユーザ数の制限があります。また、ネットワークカードが実装されている必要があること、およびライセンスサーバデーモンを起動する必要があります。

表 1 のコンパイルを同時に行えるユーザ数は、ご購入頂きました製品タイプによって異なります。また、PGI Server 製品では同じネットワークにつながった他の Windows®マシン上でもコンパイルが可能です。

PGI のライセンスキーは、下記の動作を対象マシン (PGI Server ライセンスの場合は FLEX1m ライセンス管理サーバに対して) に行った場合、ライセンスキーが無効となり、ライセンスキーの再発行が必要となりますのでご注意ください。下記の作業を行っても、ライセンスの変更を行わなくてもよい場合がございますが、開発元の PGI が提示している制限ですので、あらかじめご了承下さい。

- マザーボードを交換したとき
- ネットワークカードを別のスロットへ移動したとき
- 別のネットワークカードを追加したとき
- ネットワークカードをマザーボードから抜き、新しいカードと交換したとき

2 PGI コンパイラのインストール準備

2.1 インストールする PGI コンパイラのソフトウェアの種別

Windows®版のコンパイラソフトウェアは、OS が 32 ビットか、あるいは 64 ビットの種別に応じて、以下の二種類のソフトウェアを提供しております。該当する OS に合ったソフトウェアを弊社からダウンロードしてください。

① 32 ビット専用製品ソフトウェア

本ソフトウェアは、32 ビットの Windows®のみにインストール可能です。32 ビットモードのコンパイラ・システムがインストールされます。なお、このコンパイラでは、64 ビット用の実行モジュールは作成できません。

② 32 ビット/64 ビット製品ソフトウェア

本ソフトウェアは、64 ビットの Windows®のみにインストール可能です。32 ビットモードと 64 ビットモードの二つのコンパイラ・システムがインストールされます。従って、このコンパイラでは、32 ビット用並びに 64 ビット用の実行モジュールを作成できます。

2.1 以前のバージョンをインストールしている場合の留意点

Windows® x64 用の PGI Workstation/Server の以前のバージョンである、PGI 6.1 の時は、Microsoft Platform SDK (無償) のインストールが必須でしたが、PGI 6.2 以降は、インストールする必要はありません。Microsoft Platform SDK のサブセットである、Microsoft Open Tools が自動的にインストールされます。なお、現在 Microsoft Platform SDK をインストールしているシステム上にも、そのままインストールを行っても問題ありません。

以前のバージョン (PGI 6.2 or 6.1) をインストールしてある場合で、過去のバージョンが必要ない場合は、アンインストールすることを推奨します。但し、アンインストールをせずに、過去のバージョンを保持することもできます。アンインストールは、Windows® の「コントロールパネル」の中の「アプリケーションの追加と削除」で行うことが可能です。

過去のバージョンをインストールしてある場合は、PGI コンパイラのインストールを行ったディレクトリの配下に license.dat がセットされております。このファイルを予め、licence.backup 等の名前に変更し、この license.dat 名のファイルを必ず削除してください。

【デフォルトのインストール・ディレクトリ】

C:\Program Files\PGI\license.dat (このファイルを削除するか、別名にしてください)

2.2 PGI Workstation/Server ソフトウェアのディレクトリ構造

インストールするディレクトリをデフォルトのままで行った場合、以下のディレクトリ・パスにインストールされます。インストールを行うデフォルトのトップ・ディレクトリは、一般に、C:\Program Files\PGI となります。32 ビット Windows® (以下、「Win32」と言う。) の場合、並びに 64 ビット Windows® (以下、「Win64」と言う。) の場合は、以下のようなパス構造となります。

● Win32 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

%SYSTEMDRIVE%\Program Files\PGI\win32\7.2-1\

● Win64 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

%SYSTEMDRIVE%\Program Files\PGI\win64\7.2-1\ (64 ビットモード)
 %SYSTEMDRIVE%\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\ (32 ビットモード)

※ %SYSTEMDRIVE% は一般に、C ドライブです。

※ 7.2-1 は「バージョン番号」で、ソフトウェアのバージョンにより変化します。

さらに、以下の三つのディレクトリ (Microsoft Open Tools、cygwin、FLEXlm) が生成されます。

%SYSTEMDRIVE%\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9
 %SYSTEMDRIVE%\cygwin (cygwin の BASH シェル環境)
 %SYSTEMDRIVE%\Program Files\PGI\Flexlm (ライセンス管理マネージャ)

【Win64 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】

Name of directory	Contents
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-1\bin C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-1\lib C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-1\include C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\include	PGI コンパイラのヘッダファイル
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-1\REDIST C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\REDIST	再配布用の PGI ランタイムライブラリ
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-1\doc C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\doc	ドキュメント
C:\Program Files\PGI\win64\7.2-1\man C:\Program Files (x86)\PGI\win32\7.2-1\man	コマンドの man ページ
C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9	マイクロソフト・ツール
C:\cygwin	Cygwin ツール

【Win32 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】

Name of directory	Contents
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-1\bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-1\lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-1\include	PGI コンパイラのヘッダファイル
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-1\REDIST	再配布用の PGI ランタイムライブラリ
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-1\doc	ドキュメント
C:\Program Files\PGI\win32\7.2-1\man	コマンドの man ページ
C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9	マイクロソフト・ツール
C:\cygwin	Cygwin ツール

2.3 インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション

PGI コンパイラをインストールする際は、一時的に約 250MB（定常的には 150MB を使用）のハードディスク容量が必要になります。インストールするマシンのディスク容量を事前にご確認下さい。

2.4 ソフトウェアの準備

本コンパイラ製品をインストール際は、「システム管理者権限」でインストールを行ってください。なお、すでに [PGI の評価版ソフトウェアをインストール済みの場合は、3.2 項から手続きを開始](#)してください。

PGI コンパイラのソフトウェアは、PGI Server 製品の場合、同梱された CD-ROM を使用するか、弊社のサイトから最新（直近）のソフトウェアをダウンロードしてご使用ください。なお、ソフトウェアは定期的にバグフィックス・リリースをしておりますので、できれば、弊社サイトからダウンロードしてインストールする方法を強く推奨いたします。

PGI Workstation 製品の場合は、弊社サイトからソフトウェアをダウンロードしてください。ダウンロードする PGI ソフトウェアは、PGI Workstation 製品と PGI Server 製品の区別はありません。全く同一のものです。

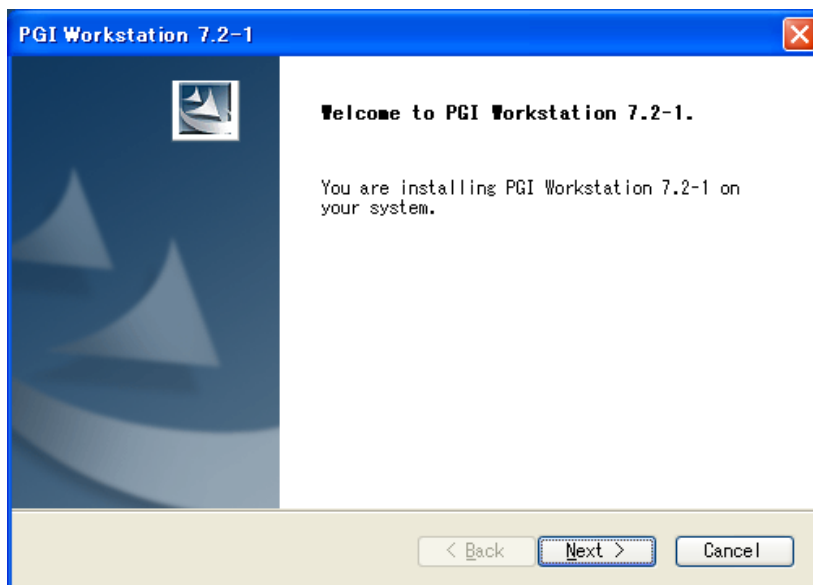
PGI 製品ソフトウェアをダウンロードで取得する場合は、別紙「PGI 製品ダウンロードの手引き」を参考にコンパイラ製品をダウンロードして、Windows®上の一時的なフォルダ内に保存してください。

CD-ROM からインストールする場合は、PC サーバの CD-ROM/DVD ドライブに本製品 CD-ROM を挿入し、表示画面中の”PGI Software”の中から該当するものを選びインストール作業を行います。

3 ソフトウェアのインストール

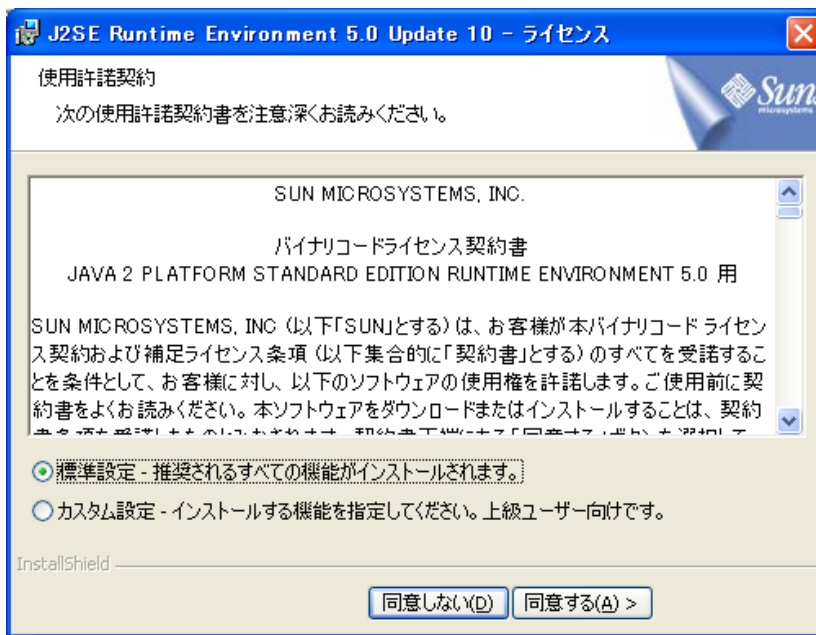
3.1 PGI Compiler for Windows(R)版のインストール

ダウンロードした自己解凍形式の pgiws-***.exe (32 ビット専用版) あるいは、pgiwsx64-***.exe (64 ビット版) のいずれかのファイルをダブルクリックすることで、インストールが開始されます。ウィザードに従って、インストール手続きをお進めください。(以下の初期画面が出るまで、多少お時間が掛かります)

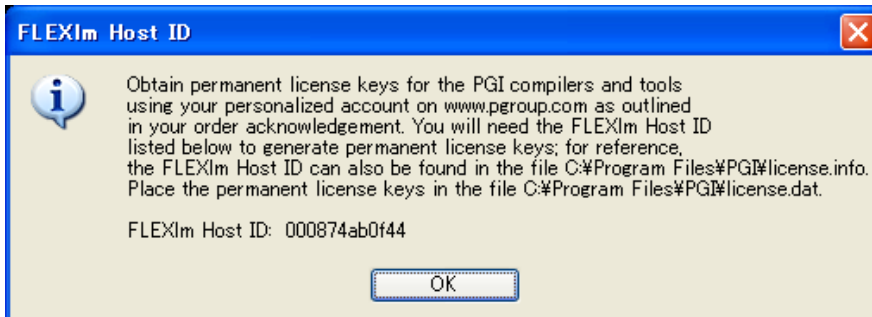


ウィザード画面は、以下の順番で進行します。

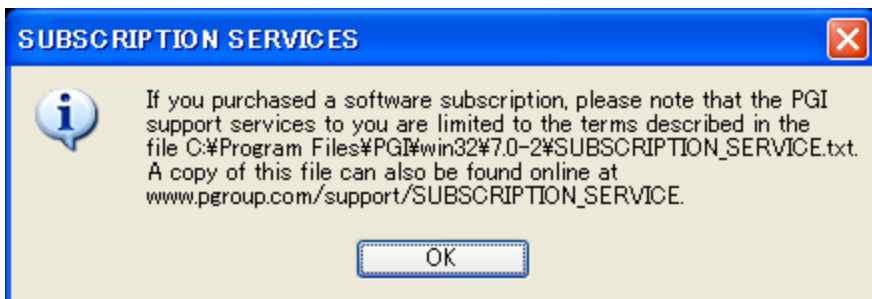
- PGI License Agreement の使用許諾確認
- ACML ライブラリのインストールの可否と使用許諾確認
- ユーザ情報入力 (名前、会社名)
- インストールするディレクトリ名の確認 (32/64 ビットの場合は、64 ビット用と 32 ビット用の二つのディレクトリ名を確認する)
- PGI のデバッガ、プロファイラのツールでは、Java Runtime Environment (JRE) を使用します。すでに、システムに JRE がインストールされていない場合、JRE をインストールするかどうかを確認します。システムにインストールされていない場合は、インストールしてください
- Cygwin が実装されていない場合、cygwin (Unix-Bash シェル環境ユーティリティ) のインストールを行うかの確認が行われます。インストールしてください
- コンパイル時にオブジェクトの一次的な中間ファイル使用するフォルダを指定します。デフォルトは、C:\¥temp です。指定されたフォルダは存在しなければ自動的に作成されます
- Windows®システム上に登録される「プログラムフォルダ名」の確認
- デスクトップ上にショートカットを作成するかの確認
- Check Setup Information の確認画面
(その後、インストールが開始されます。多少時間が掛かります)
- Java Runtime Environment の使用許諾契約 -標準設定を選択します

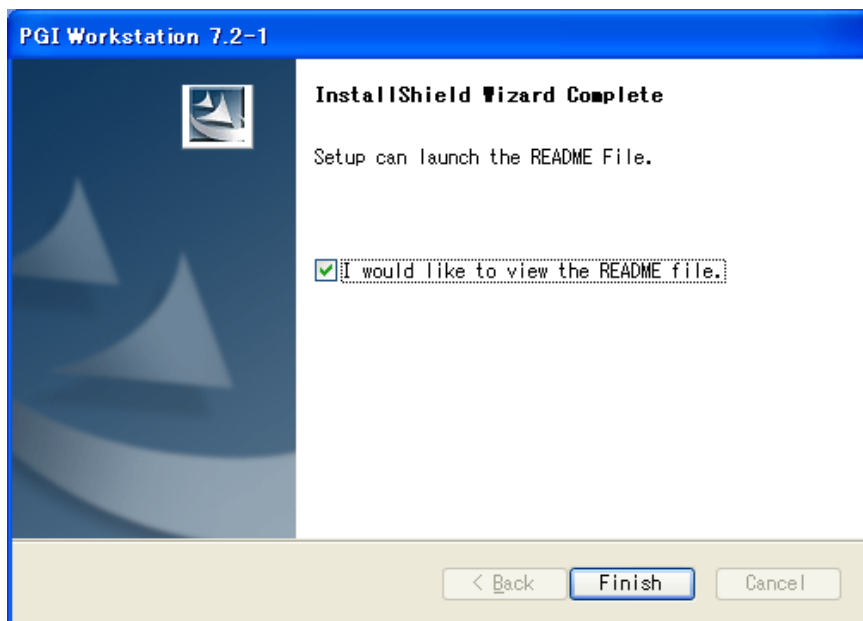


JRE のインストール終了後、以下のような FLEXlm Host ID 情報が表示されます。これは、正式ライセンスを取得する際に必要な ID です。念のため、ID 文字列を書き留めておいてください。基本的にこの ID 文字列は、使用するネットワークカード MAC address と同じもので、後でも調べることが出来ます。



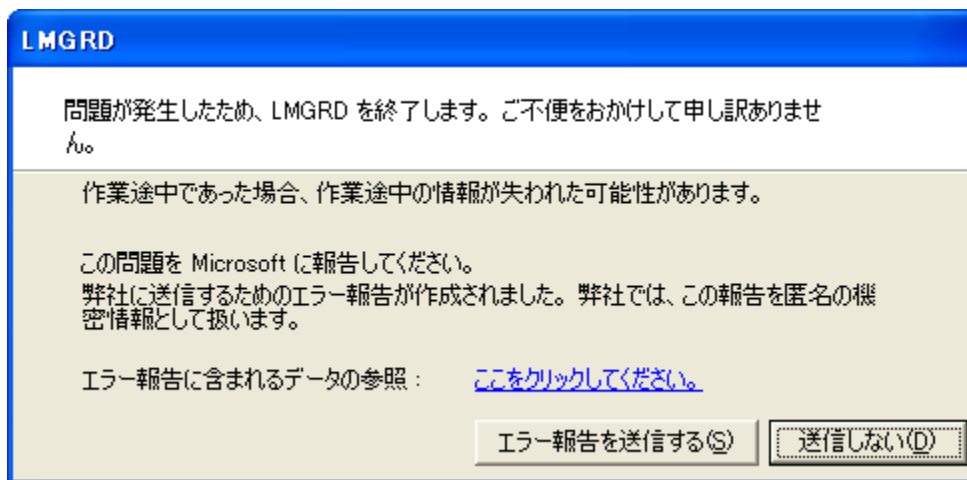
次の画面は、サブスクリプション・サービスの説明です。OK を押してください。



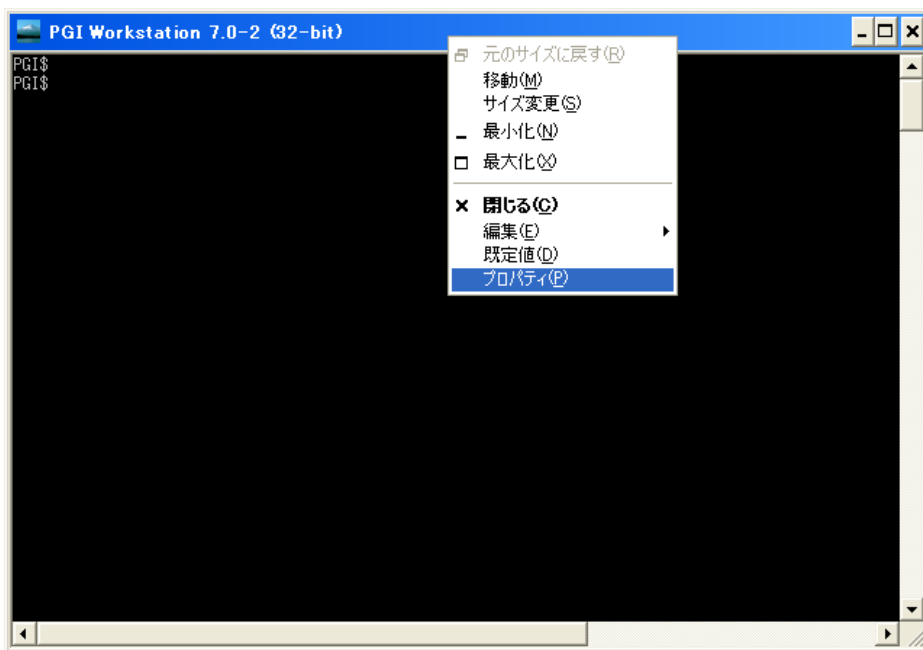


PGI ソフトウェアのインストールを終了します。
 以上で、インストールが終了しました。

なお、システムの再起動を行った直後に、以下のようなメッセージボックス (LMGRD) が表示されることがありますが、これは、ライセンスファイル並びにライセンス管理マネージャの設定が行われていないために、生じるものです。正規のライセンス設定後は、本エラーは出ませんのでご安心下さい。



さて、システムを起動後、デスクトップ画面上に、「PGI Workstation」と言うアイコンが現れます。次に、このアイコンをクリックすると、以下のような PGI コマンド・プロンプト (ウインドウ) が現れます。このウインドウのサイズ等の「プロパティ」を変更するには、ウインドウ上部 (青地) にカーソルを置き、右クリックで下記のようなプルダウンメニューが現れますので、この中の「プロパティ」で変更してください。



(PGI コマンド・プロンプトのウインドウ)

3.2 正規ライセンス取得のための Hostid と Hostname

上記の「PGI コマンド・プロンプトのウインドウ」内で以下のコマンドを実行してください。

```
PGI$ lmutil lmhostid
lmutil - Copyright (c) 1989-2005 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision
Corporation. All Rights Reserved.
The FLEXlm host ID of this machine is "000874ab0f44"
PGI$
```

この中で、000874ab0f44 という文字列がありますが、これが次に行う正式な FLEXlm ライセンスを取得する際に必要な **hostID** となります。

また、ライセンスを取得する際に必要な「hostname」情報は、PGI コマンド・プロンプト内で以下のコマンドで取得できます。

```
PGI$ hostname
HPC-PENTIUMD
```

3.3 正式ライセンスの取得

PGI 社の Web サイトにおいて、正式なライセンスキーの発行依頼を行って下さい。ライセンスキーの発行には上記で述べた **hostid** 情報と **hostname** 情報が必要です。この二つの情報を PGI 社のライセンス発行サイトで入力することにより、即座にライセンスキーが発行されません。ライセンス発行方法につきましては、別紙「**ライセンス発行の手引き**」をご参照下さい。

4 ライセンスの設定方法等

正式ライセンスキーを取得した後、FLEXlm 形式のライセンス設定方法を以下に説明します。

4.1 ライセンスファイル(license.dat)の確認と配置

FLEXlm 形式の取得したライセンスキーは下記のような形態となります。

```
SERVER HPC-PENTIUMD 001731715acd 27000
DAEMON pgroupd
PACKAGE pgi72-workstation-complete pgroupd 7.2 779CBC18AF57 ¥
COMPONENTS="pgi-f95-win64:7.2 pgi-f77-win64:7.2 ¥
pgi-cc-win64:7.2 pgi-cpp-win64:7.2 pgi-f95-win32:7.2 ¥
pgi-f77-win32:7.2 pgi-cc-win32:7.2 pgi-cpp-win32:7.2 ¥
pgi-prof:7.2 pgi-dbg:7.2 pgi-dbg-gui:7.2" OPTIONS=SUITE ¥
SIGN="04FD 9692 C2E0 3CCB 1AC1 646C 6963 2839 29E4 9FD1 CCOD ¥
B5EB 8AF7 AE9B 44AE 10D1 F8B1 97C3 3D72 E9D4 81C9 DOC5 3D5F ¥
A385 4F5E 32A2 BCE2 9264 FE43 7CAF"
FEATURE pgi72-workstation-complete pgroupd 7.2 31-dec-0 1 ¥
17E433D35CF2 VENDOR_STRING=516643:8:ws HOSTID=001731715acd ¥
DUP_GROUP=U SUITE_DUP_GROUP=U TS_OK SIGN="17E1 94FA 592C BBBE ¥
4AFF 5F35 BCC2 C4BF 7999 CF01 7BEF 550B 99A3 ED61 4B3B 1476 ¥
A2D6 A530 EAE8 2B24 3977 393B C58C 1C03 D407 3B5A 2E4D 896F ¥
5ED5 8112" (以下、省略)
```

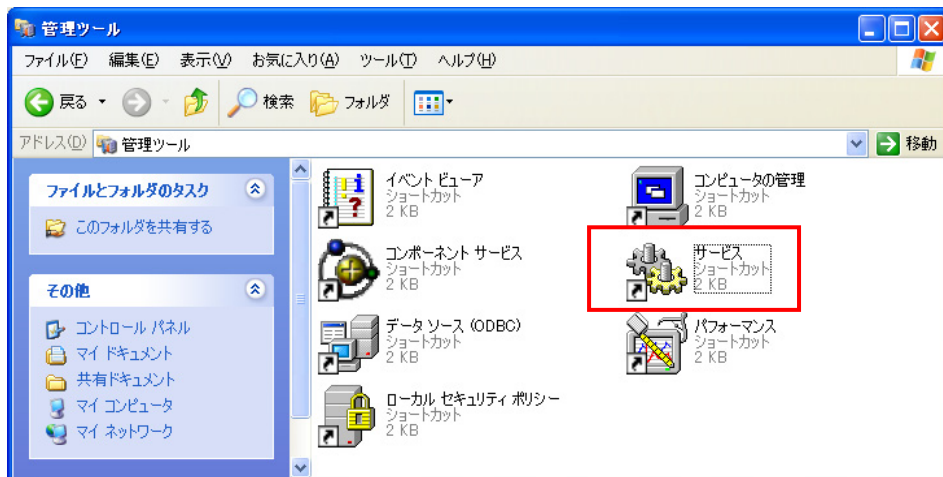
上記のような取得した新ライセンスキーを確認した上で、PGI コンパイラをインストールした Windows®システム上のインストール・ディレクトリ（例：C:\Program Files\PGI）直下に license.dat ファイルとして配置（同名の試用ライセンスファイルを上書き）します。

license.dat の一行目（SERVER 行）には、インストールしたマシンのホスト名が記述されております。上記の例では、HPC-PENTIUMD がインストールしたホスト名です。この内容が正しいことを確認してください。これ以外に変更しないでください。以上で、正式ライセンスの取得と設定は終了です。

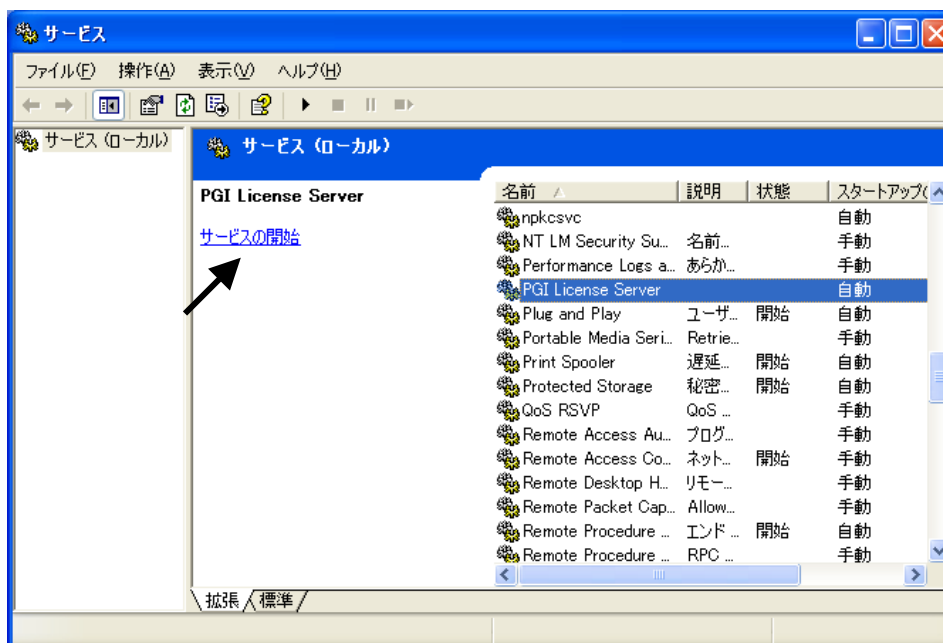
4.2 FLEXlm ライセンス・マネージャの起動

ライセンスを管理する FLEXlm マネージャを開始する手続きを行います。一般には、マシンの再起動後に、自動的に FLEXlm マネージャを立ち上がるようになっています。マシンを再起動するか、あるいは、以下の方法で明示的に起動させます。

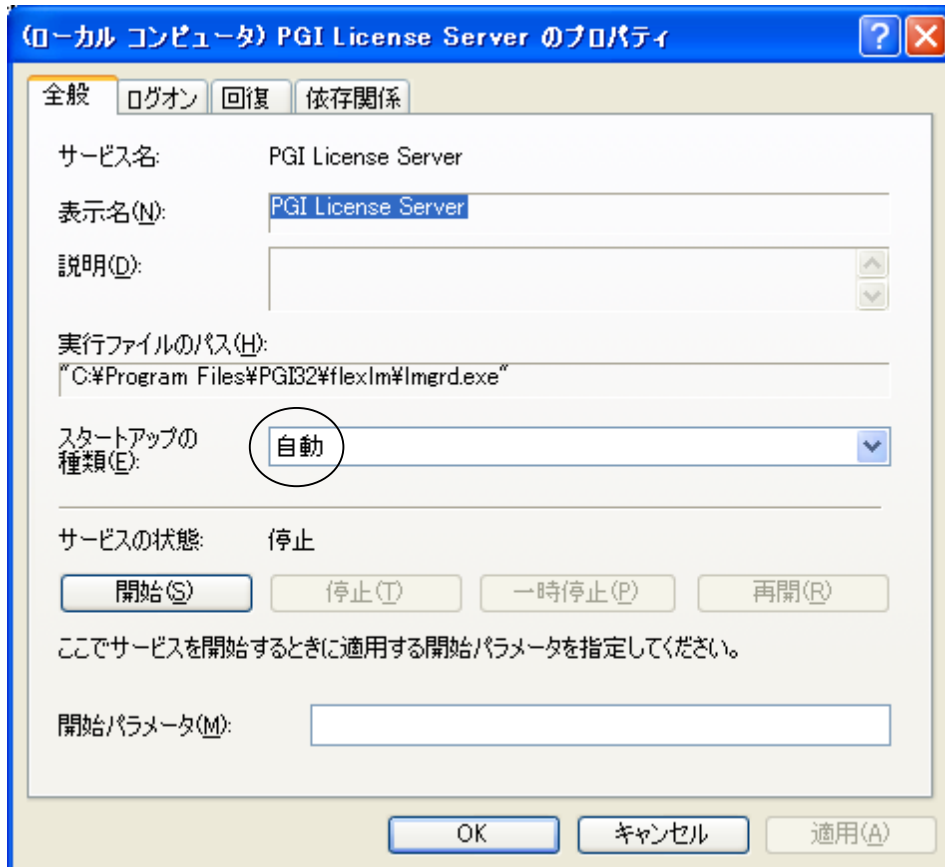
Windows® の「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」を起動します。管理ツールを起動した後、以下のような画面が現れますので、この中の「サービス」をクリックし、その画面を出します。



以下の画面は、Windows® システムの「サービス」の開始、終了、再起動をコントロールするものです。この中に、「PGI License Server」と言う名称のサービスがありますので、それをクリックして選択します。その際、以下のような画面となりますので、「サービスの開始」をクリックし実行してください。これによって、ライセンス管理マネージャ起動し、PGI コンパイラを使用することが出来ます。



「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面は、上記画面上の「PGI License Server」部分を右クリックするとメニューが表示されます。その中の「プロパティ」を選択することにより、以下の画面が表示されます。以下の画面の中央部に「スタートアップの種類」があり、これが「自動」となっている場合、システムが起動した際に自動的にこのサービスが立ち上がります。



以上で、PGI コンパイラのインストールとライセンスの設定は終了です。

(トラブル・シューティング)

PGI コンパイラを使用する際に、以下のようなエラーメッセージが現れた場合、license.dat が設定されていないか、上記の FLEXlm マネージャが起動していないことが考えられます。正規ライセンスファイルが、C:\Program files\PGI\license.dat に設定されているか、また、FLEXlm マネージャが動作しているかをご確認ください。

なお、FLEXlm ライセンス・マネージャの実行ログファイルは、C:\Program files\PGI\flexlm\license.log にありますので、このファイルを見ることで問題の糸口が見つかることがあります。

```

PGI$ pgf90 test.f
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Failed to checkout license
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license
server system.
The license server manager (lmgrd) has not been started yet,
the wrong port@host or license file is being used, or the
port or hostname in the license file has been changed.
Feature:      pgf90-win64
Server name:  192.168.0.27
License path: C:\PROGRA~1\PGI\license.dat;C:\PROGRA~1\PGI\license.dat
FLEXnet Licensing error:-15,10.
System Error: 10061 "WinSock: Connection refused"
For further information, refer to the FLEXnet Licensing End User Guide,
available at "www.macrovision.com".
    
```

【その他のライセンス・マネージャ関連のメッセージ】

- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: No such feature exists.’
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、license.dat ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。従って、正規キーが含まれたの license.dat ファイルであるかをご確認下さい。
- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license server system.’
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、PGI License Server が起動していない原因が考えられます。
- ‘ローカルコンピュータ上の PGI License Server サービスは起動して停止しました。パフォーマンス、ログ、警告サービスなど、一部のサービスは作業がない場合自動的に停止します。’
PGI License Server を起動する際に、あるいは、システムの起動時に自動的に PGI License Server が起動された際に、上記のメッセージが出た場合は、license.dat ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。
- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: License file does not support this version’
Feature : pgdbg-gui
Application version : License version 7.2 > 0.0
このメッセージは、PGDBG を起動したときの一例ですが、現在のライセンスファイルの中に正規のキーが含まれないことを意味します。ライセンスファイル (license.dat) をご確認ください。
- Windows(R) 上での License Server は、デフォルトでは、警告あるいはエラーメッセージをその都度、ポップアップ・メッセージとして出力します。これを抑止するためには、環境変数 FLEXLM_BATHCH を設定して、この値を 1 と定義することで実現できます。(PGI のデフォルトの起動バッチファイルでは、この設定がすでになされております)

4.3 他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定(PGI Server 製品)

PGI Server ライセンスは、ネットワーク上の任意のマシン上で PGI コンパイラが使用可能なフローティング・ライセンスです。複数のマシン上に PGI コンパイラをインストールして、各マシン上で PGI コンパイラを使用することができます。各マシン上でコンパイラを使う際の license.dat の設定の仕方を説明します。

ここでの仮定は、二つのマシン上に PGI コンパイラをインストールすることとします。また、1 台目のマシン上で FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げることを想定します。この 1 台目のマシンとは、上記の 4.1、4.2 の内容を設定したマシンのことを指します。この FLEXlm ライセンス・マネージャを起動するマシンは、できるだけサーバの停止を伴わないものを選択してください (ライセンス管理サーバの位置づけとなります)。

(1 台目のマシン：ホスト名を「hostA」とします：サーバマシンです)

PGI コンパイラを本インストールの手引きに従い、ソフトウェアをインストールし、上記 4.1、4.2 のようにライセンスの設定を行い、FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げます。これによって、1 台目のマシン上で PGI コンパイラを使用することができます。なお、FLEXlm ライセンス・マネージャのデーモンを起動したこの 1 台目のマシンが、他のシステムにインストールされた PGI コンパイラの動作を管理するライセンス・サーバと言う位置づけになりますので、このサーバが停止されると、他のマシン上でのコンパイラが動作しませんのでご注意ください。

(2 台目以降のマシン：ホスト名を「hostB」とします：クライアントマシンです)
PGI コンパイラを「インストールの手引き」に従い、ソフトウェアをインストールしてください。C:\Program files\PGI 配下にある license.dat のファイルに対して、1 台目のマシン上の正規ライセンスファイル (C:\Program files\PGI\license.dat) をコピーし、上書きします。その後、そのファイルの 1 行目 (SERVER 行) のみ残し、DAEMON 行以降を削除します。その後、2 行目に“USE_SERVER” を記述して改行します。これによって、クライアントの位置づけとなるシステム上では、以下に示すように 2 行のみからなる license.dat を配置することになります。なお、4.2 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャは、**2 台目以降のマシン上では「停止」してください** (「PGI License Server」サービスを停止する)。これによって、2 台目のマシンで PGI コンパイラがローカルに使用できます。

(重要) クライアントの位置づけとなる Windows 上のシステムでは、上記 4.2 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャのサービスは、「常に起動しない」ように設定してください。インストール時のデフォルトは、システム起動時に自動的にサービスを開始しようとするため、lmgrd プロセスに関するエラーメッセージが現れます。「コントロールパネル」->「管理ツール」->「サービス」->「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面上で、「スタートアップの種類」を「無効」にしてください。

【クライアント側のシステム上の license.dat の一例】 (2 行のみで構成する)

```
SERVER hostA <hostid> 27000  
USE_SERVER
```

もし、コンパイラ使用時に以下のエラーが生じた場合は、上記 license.dat の SERVER 行の hostA を hosts/DNS により名前解決ができない可能性がありますのでご確認ください。特に、Windows 上の firewall の設定、ウイルスソフトウェアの IP フィルタの設定等に TCP をブロックする設定がなされていないかをご確認ください。

```
LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot find SERVER hostname in network database
```

なお、PGI Server 製品の FLEXlm ライセンスサーバの設定に関しては、以下の弊社の Web ページ (FAQ) 上でも説明しておりますので、ご参考になしてください。

<http://www.softtek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq3.html#009>

4.4 PGI コンパイラソフトウェアのアンインストール

Windows® の「コントロールパネル」の中の「プログラムの追加と削除」で行うことが可能です。

4.5 PGI Compiler for Windows® 版使用環境の準備

PGI コンパイラを Windows® 上で使用する際の留意事項は、以下の弊社のホームページ上に公開されております。ご参考になしてください。

<http://www.softtek.co.jp/SPG/Pgi/win64/win64use.html>

4.6 オンラインドキュメントの参照

PGI コンパイラは、PDF 形式のオンラインドキュメント (英文) が同梱されています。下記

のフォルダに納められております。

C:¥Program Files¥PGI¥win32¥7.2-1¥doc (32 ビット Windows®上)

C:¥Program Files¥PGI¥win64¥7.2-1¥doc (64 ビット Windows®上)

※上記の 7.2-1 は、ソフトウェアのバージョン名です。インストールするバージョンによって変わります。

4.7 バグフィックスの適用

以下の弊社ホームページにて製品のバグフィックスを公開しております。必要に応じて適用下さい。バグフィックスのリリース番号とは、例えば PGI 7.2-1 の場合、ハイフン以降の番号が上がる場合を指します。

<http://www.softek.co.jp/SPG/ftp.html>

なお、Windows® 版のバグフィックスの適用は、再度、新ソフトウェアをダウンロードして、Windows® 上で自己解凍ファイルをダブルクリックして、インストールを行ってください。なお、バグフィックス・バージョンのインストールの場合は、現在のバージョンを「アンインストール」してから行うことを推奨します。「アンインストール」の方法は、コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行うことができます。また、現在動作している「PGI License Server」を停止した後、バグフィックス・バージョンをインストールする際は、C:¥Program Files¥PGI¥license.dat ファイルを別名に退避してから行ってください。その後、インストールが終了次第、このファイルを license.dat という名称に変更してください。以下に、ソフトウェアの再インストールの方法を順番に説明します。

1. 「PGI License Server」を停止する。(上記、4.2 項を参照のこと)
2. 現在のバージョンをアンインストールする。コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行う。
3. C:¥Program Files¥PGI¥license.dat ファイル名を別名に退避する。
4. 新バージョンをインストールする。
5. 別名に退避した license.dat ファイル名を C:¥Program Files¥PGI¥license.dat として戻す。
6. 「PGI License Server」を手動起動する。

5 サポートサービスについて

5.1 初期サポートサービス

ソフトウェア情報パッケージ未購入のお客様を対象に弊社からプロダクト出荷後 30 日間は、インストール不具合についてのサポートを行っております。下記のメールアドレスまたは FAX にて対応しております。

support@softek.co.jp
FAX:03-3412-7990

メールの表題には「PGI コンパイラ初期サポート依頼」とご明記下さい。また、メール本文中に、お客様のご氏名・ご所属・ソフテック UserID (SPG2007-XXXX) を必ずご記入下さい。ご記入に不足部分がございますと、対応が遅れることやサポートをお断りする場合がありますのであらかじめご了承下さい。

また、よくあるご質問 (FAQ) ページ並びにコンパイラの使用法、オプションの使い方、その他の技術情報 (TIPS) を以下の場所に用意しておりますので、弊社へのお問い合わせ前にご一読頂ければ幸いです。

(FAQ)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/pgi-faq.html>

(PGI サポートセンター)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/support.html>

(技術情報 TIPS)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/tips.html>

なお、電話での初期サポート依頼の受付は行っておりませんのでご了承下さい。

5.2 ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口

ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション) ご購入のお客様は以下の事項について製品購入時より 1 年間有効となります。期間満了の約 1 ヶ月前になりましたら弊社より更新の案内をさせていただきます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

上記につきましては、電子メールと FAX での受付となります。下記のアドレスで対応しております。

support@softek.co.jp Tel:03-3412-6008 FAX:03-3412-7990

以上